

# 轟く雷鳴を受けながら 戦争法廃止を訴える！

毎月19日の宣伝行動は、歌や紙芝居も参加！



戦争法の廃止を求める茨城県連絡会は、8月19日（土）、水戸駅南口で「戦争法廃止、共謀罪廃止」宣伝行動を行いました。1昨年の9月、戦争法が強行採決された19日を期して、毎月19日に連絡会が提起して宣伝行動を行っています。

開始時間前、午後3時過ぎからの雨は本降りから激しい雷雨となりました。参加者は危険を避けて駅構内の入り口脇に陣取り、通行者に呼びかけ平和の歌をいくつか唱和しました。その後、模造紙大の大きさ10数枚で作られた紙芝居「かわいそうな像」を

上演しました。雷雨で足止めをされた人たちを含め、通行する人たちも立ちどまって鑑賞しました。

リレートークでは、連絡会事務局長の木村さん（平和委員会）が、アメリカと北朝鮮間における戦争も辞さない危険な応酬に触れ、「戦争準備をエスカレートし緊張関係が深まりさせるなら、些細なきっかけで戦争突入もあり得る。話し合いでの解決を探ること。日本はアメリカと一緒に危機を煽るのではなく、話し合いの仲介役となれ」と訴えました。

## 第2回 県平和委員会 常任理事会のお知らせ

とき 9/3（日） 午後1時～5時  
ところ 茨城県平和委員会 事務室  
内容 知事選、戦争と平和展の総括 平和宣伝の意思統一  
⇒理事会提出のための議案討議

## 第3回 県平和委員会理事会のお知らせ

とき 9/16・（土） 午後1時～5時  
ところ 青少年会館  
内容 知事選、戦争と平和展の総括 平和宣伝の意思統一

## 鶴田まこみ茨城県知事候補 平和委員会もいっしょに！

いのち輝く地域の会、茨城県41市町村で結成



8月20日現在、いのち輝く地域の会が、ついに41か所で結成されました。残り3か所(境町、八千代町、五霞町)でも結成に向けて動いています。こうした状況は、過去の知事選挙では見られなかった動きであり、今回初めて実現した6つの政党・政治団体の結束の強さと幅広さを示しています。鶴田まこみ候補に勝利をもたらす地盤が県内各地に根を張ってきています。

鶴田まこみ候補は、茨城県政史上初めて「市民と野党」が共闘して擁立した候補です。鶴田まこみ知事を実現すれば、ここからの県政のみならず、国政にも大きな影響を与えます。

長期的視点からも頑張りどころです。いよいよ選挙も最終盤、他の2人の候補者を一気に追い抜き、トップランナーに躍り出る最後の一押しを進めましょう。1枚のチラシも無駄にせず、すべてのチラシを撒き切ることを呼びかけます。

## マスコミが期日前投票の出口調査を実施

今までになかったことですが、マスコミが期日前投票の出口調査を実施しています。その結果は、1位は現職橋本候補ですが、2位を鶴田まこみ候補と大井川候補が競り合っているといえます。その中で、女性の9割は鶴田さんに投票したと答えているとのことでした。

一新会（自由党）の茨城県代表畑静枝さんは、これからは、女性を中心に声掛けをすることにした。100人の女性に声をかけ、その女性に3人ずつ声掛けをしてもらい、それぞれがさらに3人を獲得するよう頑張ってもらえば大丈夫だ、と言っています。つくば駅頭での法定ビラを配布は、いつもより、若い女性の受取が良かったです。

(いのち輝く会ニュースより抜粋)

## 2017・夏の「平和展」

各地域で開催！



「広島・長崎 原爆パネル展」を、つくばみらい市きらくやまふれあいの丘・すこやか福祉館で開催！（8月8日～8月11日）

つくばみらい平和の会・憲法9条 つくばみらいの会・新日本婦人の会 つくばみらい支部が主催し、つくばみらい市が後援しました。見学者は400名を超え、大盛況でした。子どもを連れた家族の参加が多く、親が子どもにパネルの内容を説明している姿が印象的でした。

会場は絵本の朗読とDVDのが流され、コカリナの演奏が連日行われ好評でした。

## 友部平和の会主催

### 「戦争と平和展」

8月8日～20日の2週間、笠間市立友部図書館ギャラリーにて、「戦争と平和展」一止められなかった戦争・憲法とともに70年一を開催。展示期間中の10日には「郷土の戦争体験を聴く会」を開きました。



また19日には、古河市から歌人の奈良達雄さんを招き、「短歌でたどる近現代史」の講座を行いました。



## 平和新聞

2017年8月15日・8月25日 合併号  
2146号（毎月5,15,25日発行）

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 日本平和委員会  
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館  
(郵送料月額120円) 電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

## 平和かわら版

平和新聞茨城版 No. 785  
2017.8/15・8/25  
発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281  
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

## 橋本さんへの疑問



私は本誌前号で、現在進行中の茨城県知事選挙の最大の争点は、日本原電東海第二原子力発電所の再稼働（二十年延長も含む）を認めるか否かだと書いた。前回の原稿の執筆時点では、鶴田さんだけが明確に原発再稼働を認めないと表明し、橋本さん、大井川さんははっきりした意思表示をしていなかった。だから私は最後に、お二人から「東海第二原発をどうするのか本音を聞きたい」と書いた。

八月十日にスタートした知事選挙はこの三人が立候補し、今後の茨城県の未来をどうするのか、舌戦が繰り広げられた。論点、争点はいろいろあるが、私は今回も、原発に対する三人の主張、考えを整理し、今後の参考に供したい。発言内容は新聞各紙、選挙公報から採っている。煩わしくなるので、出典は明記しない。

まず現職の橋本さん。出馬表明で「原電と国がどういう方針を出すのか。それを受けての判断になる。県議会、市町村の意向を十分に踏まえる。住民投票をやるのではなく、代表民主制を重んじる」と語った。県政には重要な課題がたくさんあり、原発問題は主要な問題ではないとも言っていた。

県議会は自民党が圧倒的多数。従って「議会の意向を踏まえる」ということは再稼働に賛成することを意味する。市町村の意向とはここでは東海村を指すのだろうが、ここも原子力再稼働に賛成の議員が多いので、結果ははっきりしている。

この時点での橋本さんは、国の判断、県議会や市町村の意向に委ねるといふことだから、自分の考えはない、あるいは示さないということだ。「国は原子力推進の立場。県議会や市町村が東海第二原発再稼働を認めるのなら、私もそれに従う」という姿勢がありありと見える。八月四日の知事としての最後の記者会見でも、「コメントは差し控える」と語った。出馬表明の時とほぼ同じスタンスだと私には思える。

ところが、十日の出陣式ではそれが突然変わり、「原発は認めないという方向に舵を切っていきたい」と話した。私はその場に居合わせていないので、その発言は翌日の新聞でしか見ていないが、これを聞いた民進党のH幹事長は「寝耳に水。二十四年間の議会答弁を振り返ると、方針転換は信じられない」と、橋本を推薦している連合の幹部も「驚いた。戸惑っている」と語っている。原電関係者は「正直ショックだ」と困惑している。

橋本さんの突然の方向変更は、このように味方陣営にも驚きをもたらした。普通なら、こういう場合にはいわゆる根回しをする。それを一切しなかったということは、慎重姿勢を貫いてきた橋本さん

が「君子豹変」したということなのだろう。

四日から十日の間に何があったのか。新聞報道には「子供を持つお母さん方から原発は止めてくれと言われ、県民の思いはそうなのかと感じた」とある。今更何だと思うが、それ以上詮索はしない。

橋本さんは「舵を切る」と言った。舵を切るとは、AからBへということ。Bはここでは「東海第二原発の再稼働を認めない」ということのようなのだ。では、Aは何なのか。橋本さんはそれをはっきりすべきだと私は思う。橋本さんは二十四年間、県知事の座にあった。国の原子力政策や電力会社の動き、県民の声などを熟知しているはずだ。その上で「原発は国策。国が決めることで、自分は判断できない」というスタンスを貫いてきた。

「子を持つお母さんから言われた」からこれまでの姿勢を変えた。東海第二原発問題はそんな簡単なことだったのかと思わざるを得ない。裏に何があったのかを彼は語るべきだ。

それでは本当に橋本さんは東海第二原発を止める気なのか。

県選管の発行した選挙公報には「県民の生命と暮らしを守るため、安全性と避難体制の実効性が確保できない状況では、原発再稼働は断じて認めません」とある。条件が付いていることに注意を払いたい。橋本さんのBは、鶴田さんのようなはっきりした「原発再稼働は認めない」ということではないようだ。

安全性の確保は、原子力規制委員会が日本原電の申請書を認めればそれでパス。避難計画は県の指導で市町村に作らせている。川内、玄海、伊方、福井でわかるように、現実には実施不可能な計画でもパスしている。

東海第二原発の三十キロ圏内には百万人近い人が住んでいる。東海第二原発が事故を起こしたら、私も含めて避難できるはずがない。私は那珂市の説明会でそのことを聞いたが、担当者は困ってしまった。

橋本さんの出陣式での原発再稼働は認めないという発言に、東海村のO.Y村長は十四日の記者会見で「村は避難計画の策定中。職責を放棄するような発言で見過ごせない」と述べた。橋本さんは現職の知事だ。避難計画策定を指示した責任者である。「市町村に人とカネを使わせていて、その言い草はあるまい」というのがO.Yさんの言い分。私もそう考える。

もう一つある。東海村と周辺の自治体はこれまで「安全協定」の見直し、即ち原発再稼働の可否を判断できる市町村の範囲（現在は東海村だけ）を広げるように日本原電に要求してきた。これに対して橋本さんは、ずっとわれ関せずの態度だった。この問題をどうするのかもはっきりさせてほしいことだ。

## 大井川さんと鶴田さん

大井川さんの原発に対する姿勢は変わらない。選挙公報ではひと言も触れていない。新聞社のアンケートには、「県民本位の徹底した原子力安全対策と実効性のある避難計画が確立されることを大前提として、県民の意見を十分に反映する形で、再稼働の是非を慎重に判断する」と寄せている。私には何を言っているのかわからない。別のところでは「再稼働が廃炉かという二元的な議論にくみするつもりはない。いろんな県民の考え方をきちっと把握する努力をする」と言っている。原発再稼働が最大の争点だということに、自分の考えを言わないで県民の審判を受けるのはどうなのかなと私は疑問に感じる。

鶴田さんは原発を止めるために立候補すると言っていたので、スタンスははっきりしている。「東海第二原発は老朽化し、再稼働は危険。30キロ圏内に96万人住む日本一過密地域にある原発で、再稼働を容認したまま実効性のある避難計画は不可能。運転停止のまま廃炉」、「原発は一度事故を起こせば人間も地域も破壊する。原発発祥の地から『原発ゼロ』を発信する。再生可能エネルギーで新しい産業と雇用を確保する」と述べている。

このように、原発再稼働について三人にはそれぞれ違った立場、考え方がある。そのどれを選択するのかが県民が決める。この文が読者の目に触れる時には結果が分かっている。

私はどの立場を取るにせよ、どのような県政のビジョンを語っても、東海第二原発が事故を起こせば、すべて絵にかいた餅にすぎなくなる、と考えている。

**8.26 原発いらぬ**

**茨城アクション**



～東海第2原発20年運転延長を許すな！人間の鎖～

2017年8月26日(土)

東海村・阿漕ヶ浦公園

13:20～14:00 集会

14:00～15:00 移動・人間の鎖

※ ゲストスピーカー：鎌田 慧さん

8.26 原発いらぬ茨城アクション実行委員会